

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3291500035		
法人名	株式会社あゆみ		
事業所名	グループホームあゆみの杜		
所在地	島根県飯石郡飯南町頓原1070		
自己評価作成日	平成29年11月23日	評価結果市町村受理日	平成30年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2017\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd](http://index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成29年12月6日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

※「ともに歩み、ともに生きる」住み慣れた自宅を離れ、住み替えという選択となっても自宅の延長線上と考え、穏やかに一人ひとりがその人らしく「らしく」いられる場所をつくっていきます。  
 今後、地域の中でのその方を見つめ、「どうありたいのか」という思いを大切に、家・地域の方等と「ゆっくり、一緒に、楽しみながら」関わっていきます。  
 ※季節ごとに楽しんで頂けるような、イベントを計画しています。  
 ※地元のイベントにも積極的に参加し、地域の皆様との交流を深めています。  
 ※全館床暖房を採用しており、豪雪地帯の頓原にあっても、冬も暖かく過ごして頂けます。  
 ※お風呂は併設する頓原ラムネ銀泉のお湯を利用しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

毎年、理念に沿った事業所の目標と個人の目標を立て介護の質の向上を目指し、「今できる事、したい事」を探し、利用者が自分らしい暮らしが継続できるように支援に取り組んでいる。利用者の重度化と職員数等厳しい状況があるが、協力し合いながら業務を効率的に行い、少しでも利用者との時間を確保できるように努めている。収穫祭では地域への広報活動により参加者が増え、地域の行事に参加する機会をとらえて事業所を知ってもらおうよう努めている。合同の避難訓練を実施し運営推進会議の委員に参加してもらったり、懇親会も兼ねた家族会を開催する等できる事を拡げている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会等で理念の捉え方を職員で統一出来るよう話し合いをしている。又、スタッフルームにも掲示し、理念を共有して良いケアに繋げていけるよう心掛けている。自己評価でも共有できる内容の評価をしている。	年度初めに理念に沿って個人目標を立て年度末に振り返り向上につなげられるよう取り組んでいる。職員会議や毎日の昼礼で情報を共有し利用者に合わせた支援が提供できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年1回行われる収穫祭には、地域に呼びかけ参加して頂いている。 定期的には出来ていない。	地域の人に収穫祭への参加を呼びかけ、施設を見てもらう機会になった。文化祭や行事等に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生の体験学習時に、認知症についての講習会を行っている。地域住民に向けての取り組みは行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議事録をスタッフルームに置き、全職員が目を通す様にしている。昨年グループホームの自己評価を行いまとめた物を見て頂いた。意見等をサービス向上に活かしているものと出来ていないものがある。	事業所の現状や活動内容等を伝えている。災害、防犯、避難訓練等についての意見や助言を受け検討しながら取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回行われるサービス調整会議に出席し、現状等を報告し合っている。また、飯南町介護福祉部会・福祉施設協議会にて、関係機関で協力しサービス向上の為に研修等計画している。	2年前、町に「包括ケア推進局」が、また、今年度は福祉施設協議会が発足し、連携して取り組んでいる。月1回のサービス調整会議でも情報を共有し研修会等を行いサービス向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年度初めに身体拘束についての話しをしている。職員間で、確認等を行い身体拘束をしないケアに努めているが、不十分な面もある。夜間、防犯の為玄関のみ施錠している。	指針を作りそれを基に話し合い、業務の中で振り返っている。声かけや言葉使い等気付きがあれば互いに注意し合い取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての指針を作成し全職員に配り、理解を深めている。施設の年間目標にも取り入れ、防止に努めている。日常では、利用者さんの身体確認や声掛け等気になる所は、注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会を設けておらず、理解不十分な職員が多い。今年度中に研修会を行う予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に書面を通して十分説明をし、疑問点があればその時や後日にでも話しをして頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回アンケートを実施し、結果を全職員が目を通せるようにしている。また、家族会を行ないその中で出た意見等も議事録として残し、目を通せるようにしている。	面会時や家族会、アンケート実施で気付いた事を言って欲しいと要請している。家族会は夜に食事をしながら行い色々な話をする事ができた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会や主任会で運営に関する意見や提案が出た時は、話し合い出来る事は一部反映している。	行事、遠足等の細部は職員のアイデアを活かしサービス向上につなげている。研修や福祉部に職員ができるだけ参加できるように勤務調整し支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家庭の状況を考慮し、時間短縮等の対応をしている。月1回年休を取れるようにしている。給与表や資格手当を明確にし、各自が向上心を持って働けるよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	受けたい研修があれば希望するよう伝えている。希望がなくても順番で出来るだけ多くの職員に参加してもらえるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	飯南町介護福祉部会の研修会や交流会に出来るだけ、多くの職員に参加してもらい他施設の同業者との交流を図れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	他スタッフの関わり方や記録、入居前に家族や関わってこられた方からの情報等を参考にしながら、徐々に関係を深められるように、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があれば家族の意見を聞いている。関係を作る事に焦りを持たないように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に関わってこられた方からなぜこのサービスを選ばれたかを聞いている。本人・家族と面接をして必要に応じて相談する事もある。安心して入居して頂けるように配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の関わりの中で、何気ない会話等から学ばせて頂く事も多い。職員が主体になってしまい、本人の「出来る力」への配慮が出来ていない事もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当職員を置き、日々の様子や病院受診関係等を家族に伝えるようにしているが、一部の職員しか出来ていない。年2回家族会を実施し、1回は職員と家族が交流を図れる会にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前生活されていた地域の祭り見物等に出掛けて、馴染みの方からの声掛けや話しの中で「良かった」との声や良い表情を見る事が出来ている。	地域の人の訪問は少ないが、生まれ育った家や祭り、墓を見に行く等支援し、馴染みの人に合う事もある。顔馴染みの美容院の人に髪染めに来てもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者全体を把握して会話の援助、一緒に行動する事で一部の方達は親しくなれている。利用者同士より、個々への関りが主となってしまっている所もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	町内の方については近況を聞いたりしているが、町外の方は疎遠になりがちな為、関係を断ち切らない付き合いを大切にしていきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当のケアマネージャーが、家族・本人から意見や希望を聞いている。本人本位で検討しているが、関わりの中で気付けない事もあり、情報不足な所もある。また、担当者会で話し合い、検討している。	家族から情報を聞いたり、一對一の場面で思いを聞いたりしている。利用者の思いや希望は職員間で共有し、今したい事を大切に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からの情報を元に家族からの情報収集を行い把握している。行動・表情・会話から新たな情報収集が出来ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、出来るだけ一人ひとりと関わる時間を作り、その中で出来る事と出来ない事の把握に努めている。また、記録を見たり職員間で意見交換し把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を立て、月1回のモニタリングは出来ている。職員間での担当者会は出来ているが、家族との話し合いは出来ていない。	家族、利用者の思いや意向を組み入れてケアマネージャーと担当で原案を作り、職員会で検討し計画作成をしている。見直しは家族との話し合いが不十分と感じている。	見直し時に、利用者、家族の意向を把握する工夫を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の関わりの中で、一部の入居者は担当職員からの気づきや本人の様子が細かく記録してあるので他職員と情報交換しながら、介護計画の見直しが出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に対し、必要があれば都度対応している。また、その方に必要と思われる支援であれば、出来る方法を検討し実施出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散髪は身体面に合わせて、事業所に来て頂いたりお店に行ってもらっている。町主催の敬老会に参加したり、イベント時に保育所等来て頂き交流を図っている。どのような地域資源があるか、把握が不十分な面もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望される「かかりつけ医」に受診対応している。必要であれば家族の方にも同行して頂いている。普段の生活の様子等報告し、生活と医療が繋がるよう支援している。	利用者全員が協力病院の医師を受診し、通院等は職員が支援している。必要時には家族にも同行をお願いしているが困難な家族が増えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で気付いた事は、看護師に報告・相談し指示を受けて対応している。医療機関にも必要に応じて相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは主にケアマネージャーが情報交換し、得た情報を職員へ伝えるようにしている。他職員も面会時などに病院の看護師より状態を聞く事もある。退院前には、カンファレンスをしてもらい看護師も参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアについて病院との連携を取り、本人の状態・今後について家族さんと話し合い、職員間の情報共有を行い対応した。平成29年8月に看取りを行ない、早い段階より家族・主治医と話し合い施設で出来る事を十分に説明しながら方針を立てて行った。	看取りの支援を行ったが、職員の精神的な負担等検討すべき課題もあった。終末期について医師、家族と話し合い、事業所としてできる範囲内での対応を説明し進めていく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習は2年に1回受講している。(今年受講済み) 急変・事故発生に備えての訓練は行っていない。何かあれば、看護師へ報告するか救急搬送にて対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署に協力して頂き、避難訓練を行っている。今年、消防署との合同訓練を行い運営推進委員さんにも参加して頂く事が出来た。地域と話す場が持たず、避難場所等明確な協力体制が取れていない。	消防署との合同避難訓練に運営推進会議の委員に参加してもらい意見をもらった。連絡、避難場所等検討しながら、地域との協力体制作りが課題である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した声掛けを心掛けているが、不適切な声掛けになっている事がある。本人と職員がいつも一緒に過ごしている為か、境がなくなりやすい。気になる声掛けがあれば、注意するよう努めている。	人生の先輩として尊重し言葉使いや言葉かけ、居室への入退室、トイレの対応等に気をつけている。気付いた事を職員間で話し合い注意しながら取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の想いを聞くように努めているが、ゆっくりと話す時間が持てない事がある。何気ない会話から、利用者さんの「～したい」との想いを引き出すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先してしまう事があるが、本人のペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、整髪は基本として気を付けている。毎日の服装が同じにならないように職員が選んだり自分で選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けは職員が行っているが、自分で下膳できる方には運んでもらっている。食事は季節や行事に合わせた献立を取り入れ、おやつには施設で育てた季節の野菜を食べて頂いている。	季節の旬の食材や畑で育てた野菜等でメニューを作り食を楽しんでいる。下膳のできる人は行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量1000～1500ccを目標にし、摂取量を気にしながら水分量を確保し、飲み物の種類を変えたり、ゼリー等で摂取しやすいよう工夫している。その人に応じた、食事量、形態に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に実施しているが、朝食後に出来ていない方が多い。出来ない方は、口腔スポンジで職員が介助している。歯科受診が終了すると何かあるまで受診しない為、定期的に受診するようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態を見て、変化等あればその都度話し合いをし、その人に合った排泄の支援を行っている。トイレへの声掛けや誘導をしているが、業務優先になりきちんと行えていない事がある。	利用者の状況は把握しているので、時間を見て声かけし見守りながら支援している。夜間は見守りと状態に合わせてポータブルを使用して安心、安全につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を摂って頂けるような声掛けをし、飲みにくい様であれば、本人の好みの物を提供し摂取して頂いている。便秘時には看護師に報告し、下剤調整・浣腸・腹部マッサージ等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	併設の温泉の湯を使用し、体調やその日の利用者さんの気分に合わせて入浴して頂いている。職員の都合で入浴のお誘いをする事もある。	週に2～3回、利用者の希望や希望の時間に合わせて温泉入浴を楽しめるよう支援している。鼻唄も出て職員との会話が弾む場面にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やホールの温度・環境など、その人に合わせて工夫し休息して頂いている。不安な事があり、休めない時には話を聞き、少しでも不安が無くなるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について理解不足な点はあるが、個人ノートに処方された薬の内容を確認できるように貼付している。症状に変化があれば看護師に相談し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや手作業など、出来る事を手伝って頂いている。施設内や地域の行事に参加して頂いている。レクリエーションが出来ていない事もあり、出来る事を増やしていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠足や外食を計画し出かけて頂く機会を作っている。家族さんにも連絡し、都合がつけば一緒に出掛けて頂いている。地域の祭り等はそれぞれの地区に見物に行っている。	天気の良い時は散歩や畑に出かける利用者もある。年間行事を立て遠足や地区の祭りに行ったり外食に出かけ楽しめるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で管理と決まっており、「外へ出て買い物」と気軽に出れない。本人が所持したり、使ったりも出来ていない。必要なものに関しては、職員が代行し購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書ける方が少なく、声掛けも出来ない。贈り物が届いた時に、お礼として本人より電話をして話をされている方もおられる。近況報告や受診結果など職員が電話で伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花など生け花にして利用者が季節を感じられるようにしている。毎日施設内の掃除をして、常に清潔感のある空間づくりに努めている。シーツ交換も日にちを決めて行っている。ホールに、温度計を設置し室温にも気を付けている。	床暖房で室内は快適に過ごせるようにしている。玄関にはみんなで作った作品が飾られ、廊下には行事のスナップ写真や利用者の作品が展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのソファで親しい他者と話しをされたり、テレビを見たりして過ごされている。業務優先になってしまい、好きなように過ごして頂けない時もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族さんと連携し、居室内に本人の使い慣れた物や好みの物を持って来て頂き、居心地良く過ごして頂けるようにしている。また、写真を飾ったり本人が塗られた塗り絵など飾っている。	使い慣れたタンスや小物、好みの衣装が持ち込んである。壁面には家族の写真や自分の作品が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活出来るように歩かれる所にはなるべく物を置かないようにしている。手すりが必要な所には、相談し設置している。希望があれば、居室入り口に表札を付けている。トイレも分かるように表記している。		